

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	グループホーム つどい ひまわり棟		
所在地	〒021-0002 一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和6年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年8月29日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が安心して生活できるよう接し方や関わり方を意識した対応を心がけている。また、日々の生活の中で役割や楽しみを持ち、活き活きとした生活が送れるように、四季折々の行事やレクリエーション活動を職員も共に楽しみながら実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の本部は宮城県栗原市にあり、市内には系列のグループホーム、デイサービス、有料老人ホーム等の施設がある。事業所は、近隣に大型ショッピングセンターや市総合体育館、遊水地公園などがあり、緑豊かで交通の便のよい市街地に開設されている。2棟の2ユニット(たんぼぼ棟、ひまわり棟)で運営されており、法人の基本理念・経営理念である「一人ひとりの個性と尊厳の尊重・地域と共に」を基本として作成された事業所運営理念実現のため、職員一人一人が助け合い協力し合う職場風土が醸成されている。また、利用者職員が「集えたえん」を大切に、力を出し合い楽しむことを実践しており、職員の思いや意見が事業所の運営に活かされ、職員定着率の高さに繋がっている。自治会に加入し積極的に地域に出向くことにより、地域との良好な関係が築かれ、また、系列の施設に地域も含めた系統だった防災訓練の検討などに繋がっている。訪問診療や法人看護師による定期的な訪問もあり、医療介護の連携等、体制づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所、リビングに掲示し、月会議では理念を復唱している。職員間のコミュニケーションを密にし、日々の支援に繋げている	4項目の法人基本理念に加え、「その人らしい生活の維持、ぬくもりのある家庭的な場の提供、地域との交流を大切に」というグループホームの理念のもと、ユニット毎に毎年職員目標を定め介護を実践している。掲示と復唱にとどめず、定例の職員会議で全員で再確認し、振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議は現状開催できていないが、区長、民生委員、老人クラブ会長と顔を合わせ資料を配っている。また、地区伝統の五穀豊穡祈願祭等は地区の一員として職員が参加している。	コロナ禍で地域の方と利用者が直接触れ合うことは難しい状況にあるものの、自治会に加入する地域の一員として、職員が早朝草刈り作業や五穀豊穡祈願祭、地区民運動会に参加している。コロナ禍以前は、利用者も運動会の見学、集会所前のサマーフェスティバルに参加したり、隣接するデイサービスで保育園児との交流を楽しんでいた。今は、地域の文化祭に利用者の作品や俳句を展示したり、散歩の際に声をかけてもらい、花や野菜をいただいたりしている。自治会から事業所のため何かお手伝いできないかとの話をいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な活動は行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状開催できていないが、事業所の現状報告を資料にて行っている。また、資料配布の際に委託担当員、区長、老人クラブ会長、民生委員に手渡しの際に顔を見せるようにしている。	運営推進会議は、市介護保険担当課、行政区長、民生委員、老人クラブ会長で構成されている。これまで、コロナ禍で対面での会議開催が困難なため、書面会議とし、資料を直接運営推進委員に届け、地域行事への参加依頼や運営状況を説明しながら、情報交換の機会としていた。第5類への移行に伴い、対面での開催も検討していくこととしている。	自治会との関係が良好なメリットを活かし、運営推進会議で防災に係る現状を議題とし、地域の協力を得るための議論を進めることを期待します。また、地域との交流やサービス向上に繋がるよう、家族や利用者にとどまらず、地域で多様な役割を担う方々の委員招聘を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話、メール、FAXにて情報を頂いている。不明点は担当課へ連絡又は足を運び、協力を頂いている。	市介護保険課の職員に運営推進委員をお願いし、助言や意見をいただいている。日常の事業所運営に係る連絡や申請業務については、メールや郵送が多いものの、必要の都度直接出向き相談や報告を行い、顔の見える関係を作っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。事業所に身体拘束適正化委員会を設けており、定期的に勉強会を実施している。また、2か月に1度の運営推進会議にて定期的に報告をしている。	管理者と計画作成担当で身体拘束廃止委員会を隔月で開催し、その結果をフィードバックし職員間で共有している。本人、家族の了解を得て、転倒防止のセンサーの使用、防犯上の玄関の施錠などは、最小限の範囲としている。毎月の職員会議で、身体拘束の有無について振り返り、確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議(内部研修)の際、高齢者虐待についての学習会を行い、理解を深めている。また、常日頃から注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議(内部研修)の際、権利擁護についての学習会を行い、職員全員で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応している。契約時に密にならないように事前に書面や電話でやり取りをし、不安や疑問点に対応するようにしている。また、解約後の疑問や不明点等も説明にて納得頂くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書の発送時に不明点があれば気軽に連絡を頂けるように記載し、意見を頂いた方には対応をするように心がけている。	毎月、居室担当者が介護記録の1ヵ月分を家族に送付し、生活の様子のお知らせに努めている。また、3ヵ月毎にホームでの活動内容を紹介する写真を複数枚送付し喜ばれている。家族と電話でのやりとりが多くなっているが、その会話の中から家族の要望や思いを引き出すよう努めている。夫の七回忌に出席させたい、利用者が入院する前に会いたいといった希望があり、コロナ禍ではあるが、検査キットを活用しタイミングを工夫して実現させることができた。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に上がった意見に関して、具体化をするように心がけている。疑問に関しては法人総務へ相談し、その後開示するようにしている。	毎月開催されるリーダー会議や職員会議、申し送りノートの活用に加え、随時の相談により職員の思いや意見を把握している。入浴時間の変更や1日の流れ等の介護に根差した改善提案が多く、その具体化が職員のやりがいに繋がっている。特別に管理者と職員の個別面接を行ってはいないが、随時、話し合う関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修の支援を行っている。また、業務に伴う道具や仕組みの改良等、職員から出た意見を汲み取り、環境改善にて働きやすい職場になるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では月に1回、内部研修を開いて職員一人ひとりが勉強をしたい資料を作り、発表し、ケア向上に努めている。定期的な学習会や会議にて他職員の意見を聞く等、実践に活かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で電話等で情報交換や情報共有をするようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接面接し、困っていること、不安なこと、意向を聞いている。生活しやすい環境を作り、他利用者様との関係性も築いていけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なことを把握し、どんな生活を送りたいか意向も聞きながら家族との関係性も築いていき、サービスの提案をしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査、ケアプラン立案では、利用者やご家族が最も支援してほしい事をサービスとして導入している。支援方法として、その方の変化や状況に合わせ対応方法を変更している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活の意欲を高めるよう、役割を持って生活できるよう支援している。洗濯たたみ、シーツ交換、食器拭き等一緒に行っている。本人の「出来ないところ」はお手伝いし、一緒に行えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や出来事を毎日記入し、1カ月分を月初めに家族に送付している。その他面会時や電話連絡にて状態の報告を行ったり、家族様からの要望を聞いて関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月行事の立案、その中で使用する物を利用者と一緒に考え、制作し、馴染みの関係性を築いてきた。コロナ禍で以前のように外出はできないが花植え等は行っている。	コロナ禍以前は、利用者の誕生日に馴染みの場所をドライブしたり、昔食べた食べ物やがんづき等のおやつを楽しんでもらっていた。面会に訪れる友人もあり、時間等を配慮して面会してもらっている。また、定期的に訪れる訪問美容師、訪問看護師などが新たな馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、テーブルや席に配慮している。職員が間に入りながら、利用者同士関わりを持って頂き、過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、入院中の状態を伺いながら、空き次第再入所出来るようにご家族や医療スタッフと相談したり、他施設の情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際にBS法を用いて本人の意向を考え検討している。居室担当を中心に日々の様子や気づきを大切に、本人の思いを読み取り把握に努めている。	職員会議でブレインストーミング法を取り入れた利用者一人一人の生い立ちや生活歴の把握に加え、日常の生活を通して、会話や表情から思いをくみ取り、職員間で話し合うことにより共有し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査の際に、ご本人やご家族様から、生活歴や馴染みの暮らし方、どのような趣味があったかなど、お話を伺い把握に努めて今後のケアに繋げている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録(日中・夜間の様子・食事・水分・排泄・バイタル等)をとり、職員へ申し送りをし把握に努めている。毎月カンファレンスを開き、見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意見、要望を取り入れ、介護計画を作成している。カンファレンスでは、BS法を使い、ご本人の日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画に反映させている。	新規の入居者の場合、フェイスシートを作成し職員間で共有し、本人、家族の希望や主治医の意見を確認して、3か月の介護計画を作成している。安定した生活を送っている場合には、6か月毎の見直しとし、主治医、訪問看護師の意見も踏まえ、本人、家族の意向を盛り込んだ介護計画としている。毎月、ユニット毎の職員会議でカンファレンスを行い、理念に根ざした介護計画の作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や実践結果を記録し、介護計画の見直しに活かしている。カンファレンスや申し送りを利用して、職員間の情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの希望に応じて、訪問診療や訪問理容のサービスを利用している。外出や通院時の送迎、書類手続きの支援等を行っている。必要な物品購入も職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の訪問美容院を活用している。誕生会、行事では宅配サービス、飲食店、菓子店を利用し、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り入居前からのかかりつけ医に通院し、ご本人の状況やご家族と相談しながら受診している。受診後にはご家族への報告や相談をしている。	入居前からのかかりつけ医を家族同伴で受診している。家族の都合により付き添いが困難な場合は、職員が同行し、本人のバイタルチェック表や介護状況の資料を持参し、受診後は結果を家族に報告している。歩行困難な利用者3名が月1回の協力医による訪問診療を受けているほか、月1回の皮膚科の往診を受けている利用者もいる。予防接種は脳神経内科の協力医院に出向き接種している。週1回の法人看護師による訪問は、医療連携や利用者の体調管理の貴重な機会となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師来所日に、一人一人の様子や状態を報告している。何か変化があった時には相談をし、早期に対応が出来るよう看護師との連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、くらしのシートを病院に提出し、入院期間中も病院や家族から定期的に状況を聞き、状態の把握に努めている。病院の相談員、家族と連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化や終末期に向けての方針を説明し理解頂いている。本人に状態変化が見られた際には家族及び主治医に報告を行い、今後の体制を整えている。	重度化した場合は、法人内の老健施設を紹介する場合もあるが、家族が継続入居を希望する場合には、主治医の協力を得て、家族と話し合い看取りを行うこととしている。過去に3人の看取りを行った。法人の訪問看護師の協力を得て、看取りに関する研修会を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに伴い、職員は各自の役割を適切に行えるように、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災を想定した避難訓練と消火訓練や勉強会を行っている。	ハザードマップで水害が発生する確率が高い地域に指定され、避難訓練は併設の施設と合同で実施している。高齢者避難情報の発出の都度、同一法人が運営する宮城県老健施設(車で25分程度)に避難したことも複数回あった。避難訓練は年2回実施し、6月には利用者も一緒に水消火器での消火訓練を体験したり、居室から避難して車に乗車するまでの流れを確認した。11月には昼間に夜間想定訓練を実施する予定である。避難した利用者が居室に戻らないよう見守りが必要との助言が消防署からあり、消防団と関わりがある運営推進委員の区長を通じ協力を得ている。地域の方々も、声掛けにより訓練当日に参加してもらえることもある。備蓄は5日分準備している。	地域の協力を想定した課題を明確にしたより実践的な避難訓練とするため、夜間想定訓練は、運営推進委員の参加を得て薄暮の時間帯に実施することを検討されることを期待します。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの目線に合わせて、傾聴の姿勢にて言葉かけをしている。言葉かけをするときは出来るだけ周りに聞こえないような声のトーンでお話するように心がけている。	利用者の生い立ちや生活歴を把握し職員間で共有し、本人の思いや希望を把握し、プライバシーの保護と尊厳を持った支援に努めている。また、入居者一人一人の個人情報を蓄積したパソコン管理とその情報漏洩の防止に務めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを話して頂いている。職員間で相談しながら希望実現に取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添って本人の希望を聞きながら支援している。本人の決定を尊重するように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望やその日の天候などを踏まえて話をしながら支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、配膳、食器洗い、拭きを職員と一緒にやっている。おかずの彩を考えながら盛り付けを行っている。	法人内の老人保健施設の厨房で、主菜・副菜が調理され、チルドの状態毎日届けられ、それを加熱し提供している。事業所ではご飯と味噌汁を用意し、利用者は台拭き等の食事準備や食器の後片付けを手伝っている。ユニット毎に、焼きおにぎり食事会や、手作りケーキ誕生会、おはぎづくりなど、思い思いにおやつづくりを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や硬さ加減、大きさ等を考慮し提供している。定時に好みの飲み物を提供し水分補給を行っている。入浴後にはスポーツドリンクの提供もしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。職員が口腔状態を把握し、介助、声掛けを行っている。			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンも把握し声がけ、誘導を行っている。立ち上がりや、落ち着きない場合も一つのサインとして受け入れ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄リズム等の把握に努めている。入居者16人中、布パンツ3人、リハビリパンツ・パット使用者13人となっており、トイレ移動に要する時間等の関係でポータブル便器を2人使用している。なるべくオムツに頼らず、トイレでの排泄支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録管理を行い、必要に応じて下剤調整を行っている。また、入居者とラジオ体操をしたり、起床時に牛乳等の乳製品の摂取も頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体の時間は決まっているが、本人の希望に応じて入浴の変更を行う等の配慮をしている。また、身体の状態や本人の希望でシャワー浴に変更もしている。	週2回の入浴を基本としている。利用者の中には一番風呂に入りたい、長く入りたい、演歌を聞きながら入りたいなどの個別の希望を可能な限りかなえられるよう調整している。季節に合わせ菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に配慮し、昼食後は午睡の時間を設け、促している。体力的に休息が必要な利用者様には、本人の希望や状況に応じて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を確認して、指示された内容で服薬管理を行っている。服薬の際には職員二人で必ず確認を行い、服用している。服用後も職員二人で確認するようにしている。症状に変化が見られた場合は医師に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の興味や得意なことを見つけ、簡単なお手伝いや、体操、製作作り等の参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍の影響で病院受診以外の外出支援は行っていない。行事等で少人数に分けてのドライブを行うようにしている。	面会制限が続く中、感染症に留意しながら出来るだけ近隣の散策や公園に出かけている。近隣住民から声をかけてもらったり、花を頂いたりすることもある。ウッドデッキでの日向ぼっこ、希望する場所にでかけることのできる誕生日ドライブ、また、厳美溪や須川方面の紅葉や遊水地公園のお花見等、ユニット毎に外出支援をしている。全体的に昨年度よりも多く外出できている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム つどい ひまわり棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理している利用者様は、おりません。本人の希望に応じて何かを購入する時は、立て替えて、後で家族より頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、家族と電話でお話している。家族より、お祝いの品物が届くとお礼のはがきを出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春夏秋冬に合わせて、リビングの飾り付けを利用者と職員と一緒に作成し、季節ごとに制作を変えている。完成した達成感を味わって頂く。また、共用の空間に関しては不快感を感じないよう都度掃除、除菌を行っている。	エアコンと加湿器、サーキュレーター等が完備され、快適な温度や湿度が保たれている。用途により自由に形を作ることのできる六角形のテーブルを配置しており、壁には利用者の作品や季節感を取り入れた花火等の作品が飾られている。畳スペースやソファも置かれ、ゆったりとくつろげる雰囲気が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子を設置し、個々が寛げる工夫をしている。ウッドデッキにはベンチを用意し天気の良い日は外気浴や散歩をし、気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様との写真、自分で作成した塗り絵や作品等を季節ごとに飾っている。お部屋にテレビを設置し見たり、ぬいぐるみを置かれたり自由に過ごされています。	居室は、エアコンと蓄熱式暖房機で室温が調節され、各居室に温度計が用意されている。備え付けのベッドとクローゼットのほかに、テレビやラジオ、筆筒や衣装ケース、家族写真等を持ち込み、手作りの物などが飾られ、自分の部屋らしく落ち着いた雰囲気で居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物のたたみ、シーツ交換のお手伝い、食器拭き、テーブル拭き等を行い自立した生活が送れるように、その方にあった工夫、支援を行っている。		